

議会報告「市民との意見交換会」記録
(平成 27 年 2 月 18 日 (水) 健康福祉会館)

1 部 議会報告

市民：12 月議会の説明は、何を言っているのか全く理解できない。わからないことを後で聞けと言われても質問することを覚えてもらえない。もう少し分かり易く説明してほしい。議会の答弁のやり取りと同じだ。今日、何のためにこの場に来たのか分からない。

市民：せっかくの場であるから分かり易く説明してほしい。

班長：気を付けて説明します。

市民：議案 77 号の職員給与について、市独自の引き下げと人事院勧告による増減について整理して説明してほしい。

班長：職員給与を決める人事院勧告という制度がある。それに基づいて実施された。特別職は 0.15 ヶ月の期末手当の引き上げが行われ、職員は若手を中心に平成 26 年 4 月から 0.3%の引き上げが行われた。しかし、平成 27 年度から引き下げが盛り込まれている。

市民：市独自の引き下げをどういう立場にあるのか。

議長：市職員の引き下げ効果額を施策に使ったことがあったが、今回は人事院勧告に基づくもの。しかし、4 月以降は下がることになる。

市民：市長は職員の士気を上げて、成果を出すまで給与カットを続けると言っていたが。

司会：議案 77 号は、人勧に基づいたもの。

市民：職員給与がここに至るまでの経緯を聞きたい。分からないなら執行者に聞く。

班長：後日、調べて報告する。

2 部 意見交換 (人口増施策について)

市民：人口を 5 万人のスローガンで市長は当選した。しかし、人口は減っている。何故、人口が減っているのか市議会議員も考えただろう。若者は、大阪・神戸に行っている。原因は働く所がない。産業団地で加西市の人が働いているのか。そのことを考えているか。小野市は仕事もあり、水も安く、税金が安い。

加西市がいいと思っている若い人が一体何人いるのか。10 年後、20 年後の加西市の人口はいくらなのか。調べて市民に報告してほしい。民間企業で働く人の中には、明日の仕事もあるかどうか分からない人が多くいる。

議員は大きな責任を負っている。加西市では、働く所が無いのに住める訳がない。隣の小野市はどんどん良くなっている。小野市長は市内にお金が落ちるようにしている。玉丘古墳のスベリ台にどれくらいの人が行っているのか。収入につながるような事業をしてほしい。兵庫県は危ないから遊具を減らしている。

税金を使うばかりの事業を市議会で精査してほしい。

市民：パナソニックが市内に立地した。古い議員がパナの工場ができれば従業員の7割は市民から雇用されると言っていた。しかし、実際は2割から3割程度である。言っていたことと全然違う。

市が玉丘古墳公園に設置した3600万円の遊具は、職員の給与をカットしてやったと言っているが、本当か。このようなことも市議会も知っていてほしい。

市民：今の市政は、補助金を出して税金を使っているだけ。市議会議員は何のために出ているのか。市議の報酬を月額10万から15万円にすべきではないか。報酬削減ができていない。私は市議の報酬を下げると言ってきた。北条高校に寄付する金があるのであれば、報酬を下げるべきではないか。

班長：厳しいご意見として、承っておきます。

市民：意見交換会というなら、質問に対して議員としての意見が欲しい。

班長：ご指摘として取っている。

議長：議員の報酬を減らしたら市政が良くなるとは、私は思っていない。意見に対しては、批判だけで無く、謙虚に学びたいと考えている。小野市の事例は検証すべきところは検証。ふるさと創造会議は、皆で考えるまちづくり。地域に住んでいる住民もアイデアを出して考えることが大切。いろいろな意見に耳を貸したい。

市民：三洋電機が無くなった。小規模でも経済効果を生み出す産業が必要。小野市では、世界に誇る織物を作っている。そういうものを作らないと加西市は沈んでしまう。

班長：企業誘致についても意見を言ってきた。新産業団地についても誘致を検討してもらっている。

市民：頑張してほしい。お願いします。

議長：鶉野のトマト工場は、20億円の投資。雇用については、2~3時間のパート職員を多く雇用する予定。今秋には、出荷が始まる予定です。

市民：愛菜館には午後になると、トマトは売れてしまって、商品は売っていない。何故、トマト工場生産されたトマトを加西市内で販売してくれないのか。

班長：トマト工場は、大量のトマト生産を行う。市内の農業生産者の保護も必要である。

市民：愛菜館の品薄から考えても市内の農業者を脅かさない。需要はダブルないと思うが。

市民：議会意見交換会の参加者の人数が少ないのが残念。私は、縁あって30数年前に伊丹市から加西市にやって来た。現在の古坂2丁目は空き家が増えてきている。多くは死去、施設入所が原因である。本来なら子供が家を継ぐべきであるが、市に魅力が無いのか、仕事が無いのかと考えれば、やはり仕事のないと思う。

そこで、幾つか聞きたい。①増える空き家について、②自身の終の棲家となる墓地について、市営公園墓地の状況について、③子どもの減少問題、子どもは宝と言いつつも子供会は可哀そうな状況である。結婚適齢期の人に住んでもらう町。学校統廃合の問題。加西に住んで良かったと思えるように。④日本全国で、人口が増えている町に視察に行っていたなら、その状況を教えて欲しい。

班長：①危険空き家について、公共に使用する場合は補助対象に。新規就農者向けにも空き家活用制度がある。②公園墓地は、平成 25 年度末で空きは 20 区画あります。料金は、後から報告します。③子どもの減少については、子育て支援が最も重要。よりよい保育することが大切。市議会からも意見を出し、平均 5,230 円の保育料の軽減を引き出した。④人口減少について、給食費無料化で相生市が人口増となった。相生市に勉強に行きたい。市の財政状況から、予算を使った支援は少しずつしかできない。財政面の制約もあるが、行政に対して指摘を続けていく。

市民：北条高校は廃校になるのか。

班長：ならない。

市民：子どもが減っているのに、小学校が 11 校もいない。教育の質が良くなると子どもは増えないのではないか。

市民：加西市内の幼稚園はいくつあるのか。職員には、市から給与が出ている。支給額は多額に上っているのではないか。

班長：公立は 11、私立は 4 間違っていたら訂正したい（幼保施設であれば公立 10、私立 6。幼稚園であれば公立 8、私立 4）。先生はほとんどがアルバイトとパート。職員は少ない。保護者からすれば、質の高い保育を求めるだろうが。

市民：市外出身の者であるが、1 年前に加西市に来た。雇用があつたら良いというよりも、教育が良くないとだめだと思う。現在、1 歳の子がいる。妻に聞くと、加西市の人は郷土愛が希薄であるとのこと。ソウルフードは何かと聞いても、答えは返ってこない。1300 年の風土記のことも聞く。歴史のある町だと思う。探せばきっと何かがある。

班長：幼保は統合化し、コンパクトだが充実させて行く。市への郷土愛については、無い人もあるかも知れない、しかし、私はある。市の伝統文化を守っていきたい。

市民：何故、閉会中の建設経済厚生委員会を開かなかったのか。

私自身、他市で暮らそうと考えている。補助金を自治会に交付し、町同士を競わせながら活性化を考えられないか。市全体で 10 億円もあればできる。人口増政策課の人件費に 3000 万円以上要っている。これまで、どんな成果がでたのか。新産業団地の話は検討の状況はどうなのか。4 社の大きな企業を訪ね、聴き取りした。加西市で募集しても人は集まらないということだった。市議は頭で考えるだけで、行動が無い。トマト工場も雇用者を正社員にしないといけない。また、経済効果はどれくらいでるのか。

建設経済厚生委員長：閉会中の委員会の未開催の理由は、執行者から 1 月、障害福祉計画、介護保険計画、子育て支援事業計画について、2 日間にわたりそれぞれ 2 時間の勉強会をもったこと、及び衛生センターについても勉強会を開催した。

人口増対策については、議会意見交換会を経て、市民の意見を聴いた後、執行者と議論し提案しようと考えているためである。

班長：地域の活性化を云っていたと思う。ふるさと創造会議については、地域ががんばっている所に補助金等支援が届く。人口増プロジェクトチームの意見については、議会としては、それに提言をして行くという立場。議会は出てきた成果について意見を述

べていく。産業団地についての現地については、模索中と報告を受けている。

議長：トマト工場の雇用については、できるだけ正職員を雇用してほしい。パートについても多くの雇用を期待している。

市民：意見交換会での市議の対応が中途半端。回答数値も曖昧。市議一人ひとりが勉強してほしい。

人口増対策について、現市長は5万人を掲げ、小学校は11校存続。幼保は一体化しつつも、小学校で分離し、中学校で再度統合という状況。国は、小中一貫の方向が出ている。市議の判断は間違っていたのではないか。途中からでも現状に合わせて柔軟に対応すべき。

行政視察について、議会の答弁に生きていない。知り得た知識を市民に還元すべき。遠方への視察の理由は、

質問した数値に答えられていない。

市民との意見交換会を別の機会で開催してほしい。市議と市職員を交えて。

班長：11校存続については、宇仁地区の人の熱意があった。地域の活性化にも役立っている。

行政視察については、委員会で年1~2回、会派でも1~2回である。報告は、しっかり行っている。遠方への視察については、ネット等で探しながらも適切な地域を選定し、初日は少なくとも1団体、二日目は2団体と、きちんと予定を組みながら実施している。視察の還元については、本会議の場において、しっかりと取り上げている。意見交換会で質問のあった、数値等の返答については、勉強不足が否めないが、情報が多く全部については不可能である。しかし、分からないことは後で調べたうえお知らせする。